



平山学長新春あいさつ 2面

「2学部制で新たなスタートをしよう」

開学20周年記念シンポジウムを相次ぎ開催 3・4面

「情報システム学会」全国大会6年ぶり本学開催 6面

企業懇談会に240社、貴重な就職情報を交換 7面

「氷花(角田山を背景に)」
PHOTO: 澤口 晋一
(情報文化学科・教授)

編集部では読者から表紙を飾る写真を募集しています! 投稿方法は nuischannel@nuis.ac.jp までお問い合わせください。

CONTENTS

2・3・4面

開学20周年記念シンポジウム報告
「新潟と国際と情報について」
「21世紀東アジア<共生>の条件―」
「新潟における経営革新の実践を考える―」

新潟中央キャンパス
10周年記念講座
「政治の再発見
―市民にとって
良い政治とは―」
湧源・編集後記に代えて

5面

紅翔祭 多彩なイベントで盛り上がる
中原邸一般公開でボランティア活動
平成26年度一般入試概要とポイント

6・7面

新潟国際ビジネスメッセに出展

企業懇談会
ゲスト講演に梨田昌孝氏
教員の活動

8面

盛大に開学20周年記念式典
故小澤学院長の業績しのぶ



NUIS公式フェイスブック
<https://www.facebook.com/nuis.face>



NUISスクールアプリ開設しました
iPhone・iPad・Androidスマートフォン・タブレット向け
App StoreまたはGoogle Playストアから
新潟国際情報大学で検索
アプリをダウンロードしてご利用ください。



UX新潟テレビ21レクスタTV「ヌイスタ」
毎週金曜日12:30~13:00 国情生の発信番組
ストリーム生中継 過去番組も見られます。
<http://uvtv.jp/info/lexstudio-tv/>

2学部制で新たなスタートをしよう

「知」の資産を活かし地域に貢献



学長 平山 征夫

学生諸君、教職員、父母の皆さま新年おめでとうございます。新たな気持ちで新年を健やかに迎えのことと思います。どうぞ本年もよろしく願います。

昨年は夏の猛暑や台風被害など天候不順に悩まされた年でしたが、本学にとりましては20周年という記念すべき年でした。おかげさまで記念式典や記念シンポジウムなどの事業も、海外からのお客さまをお迎えし有意義に実施することができました。多くの市民の皆さまからも祝福を頂きました。これも皆さまのご協力のおかげであり、年頭の挨拶とともに御礼申し上げます。ただ、残念なことは本学の創設の中心的役割を担われた初代理事長の小澤辰男氏が記念式典を目前にご逝去されたことです。あらためて心よりご冥福をお祈りいたします。

より高い専門性と人間形成を目指す

本年はいよいよ年明け早々から記念事業の目玉「学生会館」の建設が始まります。完成を楽しみに見守っていきましょう。学生諸君の学内での活動がいくそう活性化する本拠地になることを期待します。

こうした残りの記念事業の実行に加えて、20周年を機に見直しを進めてきた2学部制がいよいよ4月からスタートします。定員は変わりませんが、国際化と情報化という時代要請により

的確に対応できる人材育成を目指す、これまで以上に専門性を高めると共に、より人間性に富んだ人格形成を目指し教育内容の充実を図って参る所存です。教職員一体となってこの目的に向かって創立21年目をスタートしたいと思います。どうぞご協力のほどよろしくお願い致します。

です。しかし大学を取り巻く環境には厳しいものがあります。少子化とともに地域間の経済格差拡大が進む中で、建学の理念に立脚してより魅力と特徴のある大学づくりが求められています。すし、教育・研究に次ぐ3番目の大学の役割である「地域貢献」に対する期待も一段と高まっています。何ができるかあらためて大学が持っている「知」の資産を活かして、真に地域に無くてはならない大学を目指したいと思っています。

私は最近、かつて知事時代に唱えていた「地産地消」をもじって「地消地産」の地域づくりを訴えています。それはこのままでは高齢化を伴う人口減少により「地域維持」が困難化するという危惧から、国を頼り他人をあてにするのではなく、地域が自ら自立のための地域づくりをしよう。それには地域で必要とするものは自分でつくり出そうという主張です。当然そこには「地域が必要とする人材は地域で育てよう」ということが含まれます。本学がその役割を今まで以上に果たせる大学になれるよう、皆さん一緒に力を合わせてまいりましょう。

学内活動を活性化「学生会館」の建設始まる

学校法人新潟平成学院 理事、監事、評議員を改選 新理事長に星野 元氏

学校法人新潟平成学院（新潟国際情報大学設置者）は、任期満了に伴う理事、監事、評議員の改選を行いました。

3年8カ月にわたり理事長を務めて

まいりました関根秀樹氏は、平成25年12月21日付をもって退任し、同12月22日付で星野 元氏（前新潟日报社社長）が新理事長に就任いたしました。任期は2年間です。

湧源

編集後記に代えて

入試広報委員 内田 亨

今、大学に求められている存在意義の一つに社会への貢献が挙げられる。こうした取り組みで最近話題になったのが関西の某大学である。同大学は、養殖魚専門料理店を大都市の一等地にオープンさせた。ここで、注目すべき点は三つある。

第1に、研究の継続性である。高級魚の完全養殖（卵から成魚に育成）は1970年から開始し、実に40年以上研究し続けている。研究とは時間がかかるものであり、社会還元への中長期ビジョンが必要でもある。

第2に、研究成果を直接、社会・市民に届けている点である。しかも研究者だけでなく、メニューや食器には、学生の日頃の研究成果が生かされている。

第3に、同大学の養殖場がある県と連携し、地元産の食材を提供している点である。こうした取り組みは、今後の本学の方向性にも参考になるであろう。

本学でも2013年11月より、学生やビジネススマン、市民などさまざまな年代や国籍の人が気軽に立ち寄れる場として「コワーキング・ラボこくじょう」をオープンさせた。これによって「集まる場・つながる場・創造する場」をスローガンに、社会との共同研究のシーズを発見することにもつながるかもしれない。

また既に、県内一講座数の多いオープンカレッジ・公開講座を開講し、本学の教育・研究活動を地域の人に提供している。

さらに本学は、グローバルな視点を持ったローカルな主体であり続けると同時に、地域に深く根ざしたグローバル活動をしていく存在でありたいと強く思っている。

今後、本学の知を結集して、より話題性のある社会貢献も実践していきたいと筆者は考える。

新潟と国際と情報について

想像以上に刺激的だった討論

予想を超す満員の聴衆と意見交換

シンポジウムの報告としては変かしれませんが、開催までの経緯をお話しします。その方がこの企画の意味について伝わると思われるからです。

通常、大学が一般市民の方々を対象として行う開学記念イベントには特定のパターンのあります。いわゆる有名どころによる講演会です。またそういうときに呼ばれる方々にも定番があ

ります。尼僧でもある小説家、百歳を超える現役医師、あるいは「ママ」と敬称つきで呼ばれる教育評論家などです。そういう人たちの講演に問題があるわけでは

ありません。面白いでしょうし、何らかの役立つ逸話も用意しているはずですが、しかし本学の場合、それではないのかという疑念が生じました。そういう（他大学には失礼ながら）安易な講

演会が本場に地域の人々に役立つのか。またそれは本学学生の間に漂う独特の明るさ、闊達さを世間に伝えるのか。

そういうことを考えると、先に書いたような定番講演会はどうも不適切な気がしてきました。せっかく時間と費用をかけるのであれば、新潟という地域にと

11/2

って意味があり、なおかつ本学の自由な学風（というほど大げさではないかもしれない）を伝えるものにすべきだと思い至りました。

その結果、会田誠氏（芸術家）、斎藤美奈子氏（文芸評論家）、森達也氏（ドキュメンタリー作家）という、各分野の最前線で活躍中であり、なおかつ新潟に縁のある方々による公開シンポジウムを企画しました。

結果的には、想像以上に刺激的だった討論、予定数を超えた満員の聴衆、その

聴衆からの対応しきれないほどに積極的だった意見と質問（実はこれは新潟では珍しいことです）などから、本企画は成功だったと自画自賛したいところです。

このイベント開催のもう一つの意義は、こうした企画があつたり通るほど本学は自由な大学である、ということを通じて提示できたことでもある（ひそかに思っています。ご来場、ありがとうございました）。

（情報文化学部長・教授 越智敏夫）

政治の再発見—市民にとって良い政治とは

新潟中央キャンパス
10周年記念講座

〈抵抗〉〈価値〉〈権力〉〈実践〉

4つの視点から変化を問い直す

政治がつねに変化しているということには誰でも気づいています。しかし、その変化がどういうもので、さらにはその変化が私たち市民の生活に何をもたらすかについてはよく分からないというのも事実だと思います。

年々の政治変動を前提に、その変化をどのように理解すべきかということテーマにしました。

初回では講座全体の趣旨説明をかねて、政治と市民の基本的な関係について議論されました。その後の各講師の方々にも自由に語っていただきましたが、それぞれ独自の視点から「市民にとっての良い政治」について触れていただくよう企画段階から依頼していただきました。

最終回では平山征夫本学学長が新潟県知事としての12年の経験もふまえて、「実践」の視点から政治を語りました。政治における決断について当事者ならではの指摘が多く示され、受講者の関心を高めることに寄与したと思います。

以上のすべての講義において質疑応答の時間が設けられ、毎回活発な意見交換ができたことは、市民と政治の関係について問いなおす連続講座としては理想的だったといえます。受講していた多くの本学学生にも良い刺激になりました。

（情報文化学部長・教授 越智敏夫）



新潟ゆかりの3氏おおいに語る

パネリスト

◆会田 誠氏

芸術家。1965年、新潟市生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科修了。国内外の展覧会に多数参加。作風、テーマは日本のわびさび、エロ、グロから真摯な社会問題まで。

◆斎藤 美奈子氏

文芸評論家。1956年、新潟市生まれ。成城大学経済学部卒業。児童書等の編集者を経て、『妊娠小説』（ちくま文庫）でデビュー。各紙誌で文芸評論や書評などを執筆中。

◆森 達也氏

ドキュメンタリー作家。1956年、広島県生まれ。立教大学法学部卒業。テレビ番組制作会社勤務を経て独立。以降、報道系、ドキュメンタリー系の番組を中心に、数々の作品を手がける。



そこで本講座では1990年代の政治改革以降、小泉政治、政権交代（3・11）東日本大震災など、ここ20

2回目の講義ではフラン

越智敏夫

21世紀東アジア〈共生〉の条件―「格差」と「差別」を越えて

歴史と勇気を持って対峙を

新「国際学部」の課題も再認識

情報文化学科主催による開学20周年記念シンポジウム「21世紀 東アジア〈共生〉の条件―『格差』と『差別』を越えて」は11月3日、ANAクラウンプラザホテル新潟で開催されました。冒頭、酒井直樹氏(米コーネル大学)の基調講演



は、本シンポジウムのテーマ全体を貫くものとも重要な問題提起となりました。そこでは、閉塞する日本社会と東アジアの困難な状況が、アメリカ帝国およびその「下請け帝国(日本)」の凋落の文脈から分析できること、また、現在の困難な課題を克服するためには、われわれ日本人が過去に目をふさぐのではなく、日本軍慰安婦問題に代表される「恥」の問題と勇気をもって対峙することが重要であることなどが論じられました。

顯龍氏(韓国慶熙大学校)。オーストラリアからはG・マコーマック氏(オーストラリア国立大学)、また国内からも徐勝氏(立命館大学)にご登壇いただき、加えて本学からも、小澤治子、高橋正樹、區建英、神長英

輔、越智敏夫各氏、私(佐々木)が登壇し、相互に活発な議論がなされました。各国の格差や差別の状況やその原因、そしてそれを克服するための具体的な方法が議論されました。また最後は平山征夫学長の挨拶で締めくくられました。

丸一日をかけ、しかもかなり専門的な内容であったにもかかわらず、会場には、本学学生や一般の市民の方々にも多数ご参加いただき、盛会のうちに終えることができました。本シンポジウムの開催においてご協力、ご尽力いただいた本学内外の方々に、心よりお礼を申し上げます。

(情報文化学科長・教授 佐々木寛)

知的機動力をどう活かす

地元企業の活性化の一助にも

情報システム学科は「新潟における経営革新の実践を考える―人間中心の情報と経営の実践―」と題して記念シンポジウムを11月3日、新潟日報メディアシッ

ブ日報ホールにて開催いたしました。目的の一つは新潟を支える企業の活性化の一助に資するためでもあります。

来場者アンケートによれば「野中先生のような著名な方が新潟で講演する機会をつくってくれた記念事業に感謝しています」、

基調講演としては、世界的に有名な野中郁次郎氏(一橋大学名誉教授)より「知的機動力経営」と題して、知識創造による組織・

また、講演後には「講演者の経営手法を採り入れた」などの問い合せもありました。私たちが目的とした「新潟を支える企業の活性化の一助に資する」が現実

講演	酒井 直樹 [21世紀東アジア〈共生〉の条件] コーネル大学ゴールドウィン・スミス記念基金教授。比較文学、アジア研究学、歴史学部所属。
	グローバルな「格差」と「差別」の諸相と展望 報告①A・シュマルコ(極東連邦大教授 社会学)「ロシアの格差・人権問題」 報告②G・マコーマック(オーストラリア国立大教授 日本研究)「東シナ海から見た東アジア転換期」 報告③高橋正樹(新潟国際情報大教授 国際政治学)「東南アジア社会の格差問題と民主化への壁」 討論①酒井直樹(コーネル大教授 日本政治思想史) 討論②佐々木寛(新潟国際情報大教授 国際政治学・平和研究)
パネリスト	境界=海を越える〈共生〉の試み 報告①唐利国(北京師範大副教授 歴史学)「中国の格差問題を越える歴史的な知恵」 報告②趙顯龍(慶熙大教授 言語学)「疎通のための文化教育」 報告③神長英輔(新潟国際情報大准教授 歴史学)「生活文化圏としての環日本海」 討論①徐勝(立命館大特任教授 比較人権法) 討論②越智敏夫(新潟国際情報大教授 政治学)



講演
知的機動力経営 ～Maneuvering Capability in Knowledge-based Management～ 野中郁次郎(一橋大学 名誉教授)
品質は工程で造りこむ ～スタッフにおける「自工程完結」の推進～ 鈴木浩佳(トヨタ自動車 TQM推進部 室長)
クリエイティブワークスタイル ～知識創造活動～ 潮田邦夫(NTT東日本 元取締役)
サービス・オートバイエシス ～組織を活かす新たなシステム論～ 橋本敬(北陸先端科学技術大学院大学 教授)

会場には新潟の企業・官公庁・大学の関係者より176人の参加をいただき、盛況で実りあるシンポジウムとなりました。

ができたと思っています。(情報システム学科・教授 上西園 武良)



紅翔祭を終えて

紅翔祭実行委員長 小野 史貴
(情報システム学科2年)

今年は「記念すべき20回目の紅翔祭」ということで、例年よりもグレードアップして10月12、13日に開催しました。

まずはなんといつも学生による模擬店、イベント。両日に渡って研究室やサークル主催のさまざまな催しを展開し、来場者の方たちに楽しんでいただけたと思います。

次に「西区大農業まつり」とのコラボ。野菜の販売ではなく、皆さんの方々に来ていただきました。さらに、土曜日に同日開催された、Rafverryさんのライブでは盛り上がりを見せました。

また20周年イベントとして初めてホームカミングを開催しました。国情クイズには在学生、教職員、卒業生の方が参加しました。他にも大道芸人のたいちさん、

多彩なイベントで大いに盛り上がる

びいどさん、たつきさんによるパフォーマンス、声優の矢尾一樹さんによるトークショーや、アンガールズさん、HiiHiiさんのお笑いライブなど豪華な顔ぶれで大きな盛り上がりを見せました。

父母会・みずき会の共催事業による文化講演会では、外交ジャーナリスト・元NHKの手嶋龍一さんをお招きし、多くの皆さまに有意義で楽しい時間を過ごしてもらえたと思います。

今年は両日ともに天候に恵まれ前年よりも多くの方々に来ていただきました。模擬店やイベントを催した学生の協力と多くの来場してくださった皆さまのおかげで、大変にぎやかで楽しい学園祭となりました。ありがとうございました！

今年も茶道お点前、ガイド役で地域交流

本校みずき野キャンパスの近く、赤塚にある豪農の館「中原邸」が10月6日に一般公開され、本学学生5名が恒例のボランティア活動で参加しました。

中原邸の一般公開にボランティア参加



本校からは裏千家茶道部の朝妻結花さん(情報文化学科3年)、江村涉さん(情報システム学科3年)、西山雅史さん(同2年)、大関秀佳さん(同1年)がお点前を披露しました。多くの方々に楽しんでいただき、その売り上げは中原邸の保存活動に活用されます。

さらに、馬場雅也さん(情報システム学科3年)が西区ボランティアガイド養成講座に参加し、今回、初めてガイドとして「赤塚の歴史」などの説明を行いました。

「独り立ち」を果たしました。本学ではこれまでも、表千家茶道部や吹奏楽部などのボランティア実

◎平成26年度 一般入試概要とポイント

※出願期間内消印有効。
※詳細は「平成26年度学生募集要項」または本学ウェブサイト(<http://www.nuis.ac.jp/>)でご確認ください。

募集学部 2学部2学科 情報文化学部 情報システム学科／国際学部 国際文化学科 (2014年4月新設)

入試区分	募集人員	出願期間	試験日／試験場	試験実施教科・科目	合格者発表日	入学手続期間
前期	情報文化学部 情報システム学科 65 国際学部 国際文化学科 35	100	平成26年 1月 6日(月) 1月24日(金)	【国語】 国語総合(現代文)・現代文 【数学】 数学I・数学A 【外国語】 英語I・英語II	平成26年 2月 7日(金)	平成26年 2月 7日(金) 2月19日(水)
後期	情報文化学部 情報システム学科 10 国際学部 国際文化学科 10	20	平成26年 2月14日(金) 2月28日(金)	上記3教科の中から 2教科以上を選択、3教科 受験した場合は高得点の 2教科を合否判定に使用	平成26年 3月12日(水)	平成26年 3月12日(水) 3月20日(水)
大学入試 センター試験 利用	情報文化学部 情報システム学科 10 国際学部 国際文化学科 10	20	平成26年 1月28日(火) 2月13日(木)	各学部の利用教科・科目の 中から2科目選択 3科目以上受験した場合は 高得点の2科目を 合否判定に使用	平成26年 2月22日(土)	平成26年 2月24日(月) 3月 5日(水)

入試のポイント

一般入試(前期・後期)で第2志願制を導入!!

この第2志願制を利用すると、第1志望の学部が合格にならなかった場合には第2志望の学部で合否判定を行います。

一般入試(前期)で学費給付奨学生を採用!!

一般入試(前期)の試験結果から、成績上位者に、年間授業料の半額を給付します。奨学金試験を受ける必要も、事前に申請する必要もありません。

給付額	給付対象
年間授業料の半額	情報文化学部 情報システム学科 5番以内 国際学部 国際文化学科 3番以内



「情報システム学会」第9回全国大会・研究発表大会

6年ぶり本学新潟中央キャンパスで開催

11/30

情報システム学会の第9回全国大会・研究発表大会が11月30日、本学新潟中央キャンパスを会場に開催されました。本学で情報システム学会の全国大会が開催されるのは、2007年の第3回大会に続いて2回目となります。

今回の大会は、「情報システム学」という学問がさまざまな節目にあるという現状（例えば、開催校である新潟国際情報大学の情報システム学教育が20年目を迎えること、現在、初代学部長・名誉教授の浦昭二先生の追悼論文集が刊行されたこと等）を踏まえ、「情報システム学」の原点を再考しました。そして「これからの情報システム学」への橋渡しとなる議論の場を提供したいとの思いから「人間中心の“これからの情報システム学”を探る」を大会のテーマ

人間中心の“これからの情報システム学”を探る



に掲げました。

本大会では、一般発表39件、研究会報告6件の合計45件の発表・報告が

の視点など活発な議論・意見交換が行われました。本学からも、情報文化学部情報システム学科3年の大塚俊さん、4年の原生真さんが発表しました。大会には全国の大企業などから100名を超えるご参加をいただきました。

特別講演では、金井度量衡株式会社代表取締役の金井利郎氏の「はかる未来価値の創造——百年企業が実践している人材教育——」元前橋工科大学教授・神沼靖子氏の「情報システム学の教育体系と学び」と題しお話ししていただきました。

今回の大会開催にあたり県内外の団体、企業からたくさんの協賛・後援をいただき、この場をお借りしてご報告およびお礼申し上げます。

（情報システム学科・准教授 佐々木桐子）

原点を再考し意見交換

45件の発表・報告

（本大会の詳細は、<http://www.issj.net/conf/issj2013/index.html> をご参照ください）

際情報大学20周年記念シンポジウム「21世紀東アジア〈共生〉の条件」（ANAクラウンプラザホテル新潟）

- ・（2013年11月22日）〈Русские на Карафуте в 1905-1948 гг. Из архивных документов на японском языке ГИАСО〉Всероссийская научная конференция «Россия на дальневосточных рубежах»（ユジノサハリンスク市、ロシア）

上西園 武良（情報システム学科・教授）

- ・（2013年11月2日）笹川佳進ら「ハンドドライヤー使用時の乾きの向上に関する研究—手の挿入口の幅拡大による検証・対策検討—」日本人間工学会東海支部2013年研究大会（相山女学園大学）
- ・（2013年11月2日）藤井勇次ら「キーボードの誤タイピング低減に関する研究（第2報）—誤タイピング低減のための実験と課題・対策検討—」日本人間工学会東海支部2013年研究大会（相山女学園大学）

小林 元裕（情報文化学科・教授）

- ・（2013年9月14日）「駐日戦争爆発と華北の日本僑民—北平・天津を中心—」日中戦争国際共同研究第5回会議（中国西南大学、中国）
- ・（2013年11月12日）「東京裁判と中国—その研究成果と課題—」2013年東京裁判国際シンポジウム（上海交通大学・蘇州大学、中国）

佐々木 寛（情報文化学科・教授）

- ・（2013年6月23日）講演「女性と憲法——求められる平和・人権・民主主義」北京JAC・新潟主催（新潟ユニゾンプラザ）
- ・（2013年7月9日）講演「改憲の動きと社会民主主義の役割」長岡非核・護憲市民の会主催（バストラル長岡）
- ・（2013年8月3日）講演「今、教育を考える——子どもたちに伝える平和の思想」藤沢の教科書・採択問題に取り組む会主催（藤沢市民会館）
- ・（2013年8月23日）講演「東アジア〈共生〉の条件——沖縄から考える「脱同盟」への道」にいがた市民大学（クロスバールにいがた）
- ・（2013年9月9日）講演「「3・11」後の新しい「文明」を考える——「第4の革命」は可能か」にいがた市民大学（クロスバールにいがた）

近山 英輔（情報システム学科・准教授）

- ・（2013年10月30日）「非線形関数のステップ関数表示の公式」第51回日本生物物理学会年会（京都市）

藤田 晴啓（情報システム学科・教授）

- ・（2013年8月29日）“GHG credit system for environmental good practices”, a key note paper for the International Conference on IT and Intelligent Systems (Penang, Malaysia)

3) 競争的資金獲得研究

内田 亨（情報システム学科・教授）

- ・（2013年4月—）科学研究費助成事業挑戦的萌芽研究「ホスピタリティ性を発揮する感情労働者への組織的支援モデルの構築」研究分担者

4) 委員・社会的活動・記事・その他

内田 亨（情報システム学科・教授）

- ・（2013年11月16日）丸山智美「感情労働者のジレンマ—上司と顧客、どちらが重要か—」、土田悠太「中小企業と銀行の相互関係モデル—Deep relationship banking—」NPO法人さいたま起業家協議会主催第9回懸賞付学生論文発表会協賛企業賞受賞、指導教授として感謝状授与（さいたま市新都市ビジネス交流プラザ）
- ・（2013年9月27日）新潟県農業共済組合連合会平成25年度第1回コンプライアンス委員会（NOSAI新潟）

越智 敏夫（情報文化学科・教授）

- ・（2013年7月21日）UX新潟テレビ21「選挙ステーション：参院選開票速報解説」出演

小林 満男（情報システム学科・教授）

- ・（2013年6月30日—）経営情報学会理事（財務委員長）
- ・（2013年7月6日）修習技術者勉強会（東京地区）講師
- ・（2013年7月8日）「新潟国際情報大学における国際化、情報化の取組み」ICT海外ボランティア会会報No.42
- ・（2013年7月30日）新潟市西川図書館協議会出席（新潟市）
- ・（2013年9月4日）人札書適合評価委員会（座長）報告書提出（財団法人自治体衛星通信機構）
- ・（2013年11月3日）新潟国際情報大学情報システム学科20周年記念シンポジウムパネラー
- ・（2013年11月30日）情報システム学会全国大会「ビジネスと情報」座長

谷本 和明（情報システム学科・教授）

- ・（2013年11月6日—）新潟県海洋エネルギー研究会会長

藤田 晴啓（情報システム学科・教授）

- ・（2013年8月21日）「世界遺産マチュピチュ太陽の神殿修復へ着々」『朝日新聞』東京版朝刊
- ・データ中心科学リサーチ・コモンズ事業共同研究員
- ・新潟県委託事業「大学生の力を活かした集落活性化事業」指導教員
- ・（2013年5月3～5日、6月14～16日、7月19～21日）「集落能楽継承・能舞台活用による佐渡活性化」能合宿・離子講習会
- ・新潟国際情報大学エクステンションセンター「謡・笛・小鼓講座」第一期および第二期企画運営

「新潟国際ビジネスメッセ2013」

「新潟国際ビジネスメッセ2013」が10月24・25日の2日間、新潟市産業振興センターで開催され、本学情報システム学科の高木義和教授、中田豊久講師および同学科の学生たちが展示を行いました。

高木・中田の2研究室が展示参加

まな企業や大学から展示され、本学は毎年参加しています。

情報システム学科では、講義・演習等でプログラミング技術を学ぶだけでなく、学んだ技術を実社会で生かすことを試みる取り組みを行っています。今回は、高木研究

室で開発された栄養計算データベース、中田研究室で開発された物理エンジンを用いたさまざまなアプリケーションについて展示、紹介を行いました。



につながる貴重な意見をいただくことができました。

学んだ技術を実社会で生かす

平成25年度「企業懇談会」が11月20日、ANAクラウンプラザホテル新潟で開催され、240企業団体から341人の参加をいただきました。講演会にはNHKプロ野球解説者の梨田昌孝氏をお迎えいたしました。

現役時代の経験に基づいた「常にプラス思考」に捉える事について語り、「声を出す」「挨拶をする」など人としての基本的な言動を繰り返すことが重要であり、選手を信頼し常に良いところを探し自信に結びつけ一線で活躍できる選手に育てるなど、人の成長に忘れてはならないキーワードを多く紹介。企業の成長には、組織やそこで働く社員が前向きに行動できる環境とマネジメントの大切さを学びました。

平山征夫学長が、開学20周年を迎えるにあたり2学部制としてスタートする経緯や、自立と豊かな人間性を持ち地域社会に貢献できる人材育成に努めていることを紹介。そのうえで、参加された企業の方々に就職活動と採用に理解と協力をお願いしました。

梨田氏は「長所をいかして個性を伸ばせ、梨田流自己と組織の育成法」と題し、

240社が参加し企業懇談会



就職活動と採用に貴重な情報交換

懇親会では、関根秀樹理事長と就職指導委員長・上西園武良教授があらためて就職活動と採用に協力と感謝を表明。来賓代表の新潟県電子機械工業会・池田忠彦会長より乾杯のご発声をいただき開宴しました。卒業生の近況や業界動向など幅広い情報交換をしつつ懇親を深めることができました。

教員の活動（本人申告による）

1) 研究論文・図書

安藤 潤(情報文化学科・准教授)

- ・(2013年) "Empirical Analysis of Dual-Earner Couples' Housework Behavior Using the Japanese Version of the General Social Survey (JGSS)-2006 Data," The Japanese Economy 39(4) (42-59頁)

區 建英(情報文化学科・教授)

- ・(2013年) 「厳復一国民の自由を探し求めた非主流の思想家」趙景達・村田雄二郎等編『東アジアの知識人 I 文明と伝統社会』有志舎 (118-134頁)

白井 健二(情報システム学科・教授)

- ・(2013年) "Process Throughput Analysis for Manufacturing Process under Incomplete Information based on Physical Approach", International Journal of Innovative Computing, Information and Control 9, 4431-4445
- ・(2013年) "Improving Throughput by Considering the Production Process", International Journal of Innovative Computing, Information and Control 9, 4917- 4930

高橋 正樹(情報文化学科・教授)

- ・(2013年4月) 「タクシンとタイ政治—平等化の政治プロセスとしての紛争と和解」松尾秀哉・白井陽一郎編『紛争と和解の政治学』ナカニシヤ出版 (160-178頁)
- ・(2013年3月) 「タイの失地回復運動が求めた領土と民族—大陸部東南アジアの潜在的な地域国際秩序—」『法学新報』第119巻 (427-479頁)
- ・(2013年3月) 「途上国の権威主義を支える国際的要因—戦争と主権国家システム—」『法政理論』第45巻 (94-129頁)

藤田 晴啓(情報システム学科・教授)

- ・(2013年) "GHG emission reduction by waste cooking oil recycling in environmental partnership program of Bogor City", Regional Conference and Workshop of Life Cycle Thinking on Energy, Food and Agriculture in Asia, LCA AgriFood Asia 2013 (24-26頁)
- ・(2013年) "Environmental Analyses of Waste Cooking Oil Recycling and Complete Use Practices in Bogor, Indonesia", International Conference on IT and Intelligent Systems (60-64頁)

2) 学会・研究会・講演等

伊村 知子(情報システム学科・講師)

- ・(2013年3月) 「チンパンジーとヒトの視覚認知—比較認知発達のアプローチから」新潟心理学会談話会

白井 陽一郎(情報文化学科・教授)

- ・(2013年6月9日) 「サブ・リージョナリズムの国際政治学—ビッグ・パワーと地域組織の境界ガバナンス」早稲田大学サブリージョン研究会(科研プロジェクト) (早稲田大学)
- ・(2013年7月27日) 「環境のE.U. 規範の政治」慶應E.U.研究会(慶應義塾大学)
- ・(2013年8月20日) 講演「E.U.の環境政策と標準化政策—規制力の視点から」(消費者庁)
- ・(2013年5月13日) 特別講義「Ecological Democracy and EU Environmental Governance: A Normative Viewpoint」Comparative Studies of Politics and Administration in Asia (CSPA) (九州大学)
- ・(2013年7月29日) 特別講義「大学で学ぶということ、社会で働くということ」(上越高校)
- ・(2013年9月10日) 特別講義「E.U.の政体としての特徴と対外行動の戦略」(一橋大学)

内田 亨(情報システム学科・教授)

- ・(2013年10月18日) 「感情労働再考—感情労働者の有効活用モデル構築を目指して—」第40回日本クリニカルガバナンス研究会定例研究会(日本医療企画)
- ・(2013年11月30日) 大塚俊ら「組織における管理者と成員の意識の相違についての一考察」第9回情報システム学会全国大会(新潟国際情報大学)
- ・(2013年11月30日) 原生真ら「路上ライブの顧客特質と集客方法—学生バンド『ぼこびー』の事例を通して—」第9回情報システム学会全国大会(新潟国際情報大学)

區 建英(情報文化学科・教授)

- ・(2013年9月29日) 「中日近代と西洋：文化受容のコンテクスト転換」東アジア思想交流史研究会(名古屋大学)
- ・(2013年10月11日-13日) 「厳復の思想における国民形成と『中学』価値の再構築」「厳復：中国と世界」国際学術会議(北京大学、中国)
- ・(2013年11月13日-14日) 「中日近代と西洋：厳復と福沢諭吉の異文化受容と思想構築」「東亜思想交流史」国際学術会議(台湾大学、台北)

越智 敏夫(情報文化学科・教授)

- ・(2013年8月30日) "Politics and Political Science after the Tohoku Earthquake", American Political Science Association (APSA) Annual Meeting & Exhibition (Chicago, USA)
- ・(2013年8月18日) 講演「住民自治と議会・議員の役割」議員定数と議会・議員の役割を考える会(新潟ユニゾンプラザ)
- ・(2013年9月7日) 講演「参院選後の政治状況について」新潟県教育労働問題研究会(新潟会館)

神長 英輔(情報文化学科・准教授)

- ・(2013年9月28日) 「コンプの旅とコンプ革命 近現代東北アジアのコンプ業」近世史フォーラム9月例会(新潟市歴史博物館)
- ・(2013年11月3日) 「生活文化圏としての環日本海 近現代のコンプ業の歴史から考える」新潟国

盛大に開学20周年記念式典

海外6提携大学からも祝福

11/2

本学の開学20周年を祝う記念式典と祝賀会が11月2日、ANAクラウンプラザホテル新潟で盛大に開かれました。県市や商工会議所など地元官財界や中国、韓国総領事や提携大学関係者など海外からの来賓も含め約400人が集い、環日本海交流を中心に据えた国際化・情報化時代に対応した教育を目指してきた歩みを振り返り祝福しました。

本学は地元自治体や経済界などの支援を受けて平成6（1994）年4月に開学。これまでに5千人近い卒業生が主に地元企業などに就職して、地域経済の活性化と地域文化の創造を担う人材として期待されています。海外留学・セミナーに力を入れ国際教育・異文化理解を深めて、提携6大学と学生・研究者交流も進めてきました。

記念祝賀会では、その北京師範大学（中国）、極東連邦大学（ロシア）、ノースウエスト・ミズーリ州立大学（アメリカ）、慶熙大学（韓国）、光云大学（同）、アルバータ州立大学（カナダ）の代表者たちが壇上に上がって紹介され、それぞれが友好と交流の成果を披露してスピーチし、大きな拍手が贈られていました。

また祝賀会では学生と教職員らが、校歌斉唱や能舞囃子、高砂などを披露して華やかな雰囲気盛り上げていました。会場には大学誕生に奔走した行政や教職員など関係者の顔ぶれも見られ、テーブルを囲み当時から懐かしみ大学の将来を語り合っていました。

国際化時代を見据えて 地域に開かれた大学に



関根秀樹理事長 式辞（要旨）

本私学誕生の背景には、人と地域の強い思い、理念・目的が込められています。日本海側の中核都市として環日本海、北東アジア交流の推進のための人づくりが急務でした。開学以来、実社会に役立つ多彩なカリキュラムを用意してきました。来春には国際学部を新設し、当初から目指した2学部制が実現の運びとなり感慨ひとしおです。地域に開かれた大学として、さらなる社会貢献を目指し全力で取り組んでまいります。

平山征夫学長 挨拶（要旨）

「この地域に無くてはならない大学」と評価され、卒業生が活躍し地域の力になってきています。実践を重視する教育方針が社会人としての活動の中で活かされています。次の20年を見据えた大学改革の必要性を論じ、時代の変化を織り込んだ教育にチャレンジし、新しい2学部体制をスタートします。地方の私学を巡る環境は厳しいですが、地域が必要としている人材を地域で自ら育成するために、教育と研究の充実に励みます。

1千人を超す参列者が業績しのぶ



愛郷と人材育成に情熱

本学の創設者、学校法人新潟平成学院の小澤辰男学院長が、10月13日に96歳で永眠されました。お別れの会が遺族と学院との合同で12月3日、ANAクラウンプラザホテル新潟で執り行われ、政財官の各界関係者など全国から1千人を超す参列者が故人の業績と人柄をしのびました。

小澤氏は主に中央政界を舞台に活躍しましたが、常に郷土を愛し続け、晩年は県内教育環境の充実と若い世代の人材育成に情熱を傾け、大学創設に私財も投じて尽力しました。

祭壇には大きな遺影が掲げられ、生前に好きだったという白色の菊の花で囲まれました。途切れなく訪れる参列者はランの花びら一房ずつを祭壇に手向け

て合掌し、喪主の長女（小澤さん）や関根秀樹理事長や平山征夫学長らに話しかけていました。

また会場には数多くの弔電と、生前の写真パネルが飾られ、懐かしいフィルム画像も映写されて多くの人が見入って、思い出などを語り合っていました。

小澤氏は東京帝大を卒業し内務、厚生官僚などの後に政界に転じ、昭和35（1960）年に自民党から出馬し初当選。その後連続13回当選し衆院議員を40年間務め、平成12（2000）年に引退するまで建設相、環境庁長官、厚生相などを歴任。田中角栄元首相の側近としても活躍し事務総長に。自民党分裂後は新生党、新進党を結党し改革クラブで代表を務めました。平成5（1993）年から学院理事長を務め2年間は学長も兼務、平成17（2005）年に学院長に就任しました。平成12年に勲1等旭日大綬章。平成25年11月に正三位。



小澤辰男学院長お別れの会

12/3